

指導の視点	栄養教諭・ゲストティーチャーとの連携を図りながら、五感に訴える活動を通して、日本の漁業の問題点や解決への動きを理解し、日本の漁業の発展について自分なりに考える力を育てます。
-------	--

1 単元名 これからの食料生産とわたしたち

2 目標

- 日本の食料生産の問題点や解決への動きに関心を持ち、どのような方策があるのか意欲的に追求し、自分なりに考えようとしている。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- わが国の食料生産の抱える問題を、環境への影響、国際協調、生産者と消費者などの観点をもとに考え、その解決に向けてのさまざまな取り組みを考えている。
(社会的な思考・判断)
- わが国の食料生産の抱える問題についてさまざまな資料から読み取ったことを、自分なりの言葉で表現することができる。
(観察・資料活用の技能・表現)
- わが国の食料生産は国民の生活を支える重要な産業であるが、現在さまざまな問題があり、それらを解決するには、生産者と消費者ができることをともに考えることが必要であることがわかる。
(社会的事象についての知識・理解)

3 単元について

本単元は、学習指導要領の内容(1)を扱う。わが国の食料生産は、働く人の減少、環境への影響、安全性、低自給率などの問題点があることを理解し、国民の食料の確保のために、食料生産をめぐる問題をどのように解決するか、さまざまな立場の考えを受けとめながら、自分なりの考えを深めることをねらいとしている。

本学級の児童は、農業・水産業が国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかかわりをもって営まれていることについて学習してきた。日本の漁業従事者数が減少していることや、栽培漁業の難しさ、日本の食料自給率が39パーセントほどであることを知り、食料生産に関心をもつ児童が多い。しかし、食生活が豊かになり、児童は食べたいものがいつでもどこでも食べられる環境の中にいる。好き嫌いが多く、自分が好むものしか食べない児童も数名いる。

そこで、本時は、栄養教諭・ゲストティーチャーを招いて、今まで学習してきた知識を深めたい。また、実物を見て、魚の名前を知る・触る・さばくなどの活動のほか、実際に、つみれ汁を試食して、日本で獲れた魚のすばらしさを実感させたい。日本の漁業がこのまま衰退したらどうなるのか、それらを解決するにはどんな努力が必要かを考えていく。そして、これからの漁業は、生産者と消費者がともに考えることが重要であることに気づき、わが国の漁業の発展に関心を持ち自分なりの考えをもてるようにしたい。

食育の視点では、④「感謝の心」⑥「食文化」を関連づけて指導したい。子どもたちが、実際に魚に触れる体験を通して、魚に親しみ、食文化や食品の生産・消費について理解を深め、特産物を理解し、日常の食生活と関連付けて考える力を身につけさせたい。

〈食育の視点〉

- ・ 生産者や自然の恵に感謝し残さず食べることができる。(感謝の心)
- ・ 特産物を理解し、日常の食生活と関連付けて考えることができる。(食文化)

4 指導と評価の計画 (全6時間)

時	学習内容	活動における具体的評価規準と評価方法
1	・栄養教諭を招き、給食の食材がどのようなところからきているのか、また、日本の自給率について話を聞き、食材の安全性について考える。	・環境にやさしい食料生産や、食料の自給率の問題、安全な食材選びについて考えることができる。 (思考, 判断) 【ワークシート, 発表】
2	・資料から、日本の水産業で働く人の数の減少, 環境への影響などの問題点について理解する。	・日本の水産業の現状、問題点を理解できる。(知識, 理解) 【ノート, 発表】
3	・わが国の漁業の現状と未来に関心を持ち、自分なりに考え、発表する。	・栄養教諭やゲストティーチャーの話を聞き、わが国の漁業の問題を、環境の変化による影響、国際協調の観点、生産者と消費者との観点をもとに考え、これからの日本の漁業について、自分なりの考えをもつことができる。
4	・これからの漁業は、環境を考え、自給を高めるために生産者と消費者がともに考えることが大切であることに気づき、日本の漁業の発展について、自分なりの考えをもつ。	(思考・判断) 【ワークシート・発表】

5 本時の学習

(1) 目標

日本の漁業の問題を、環境の変化による影響、国際協調の観点、生産者と消費者との観点をもとに考え、これからの日本の漁業について、自分なりの考えをもつことができる。

(2) 準備・資料

資料(漁業従事者減少、水産物輸入量の変化、近海で獲れる魚)、那珂湊港の過去と現在の写真、大漁旗、実物資料(さんま・いわし・さば)、つみれ汁(児童分)

(3) 展開

学習活動・内容	支援の手立て・評価	
	T1	T2・GT
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> これからの日本の漁業について考えよう。 </div>	○ 学習課題をつかませるために、資料や写真を提示し、わが国の漁業の現状と問題点を、確認させる。	GT
<p>2 ゲストティーチャーの話を聞き、日本の漁業の現状や、食料事情について話し合う。 (予想される気づき)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 那珂湊漁港の近海では、いろいろな魚が獲れる。 ・ 日本は、魚を食べる人が減っている。 ・ 外国では、魚を食べる人が増えている。 ・ 輸入される魚の量が増えている。 ・ 栽培漁業は時間がかかる。 	○ 那珂湊漁港の近海で獲れるいろいろな魚を調べるために、資料を提示する。	○ 過去は日本有数の港として繁栄していた那珂湊漁港の現状について説明する。
<p>3 日本のまわりで獲れる魚を、資料から読み取る。 ・さんま魚の様子をビデオで視聴する。</p>	○ さまざまな種類の魚を見て、実際に触れたり、魚の名前を覚えたりし、形や手触りを体感させたい。	GT
<p>4 実際の魚に親しむ。 さんま、かつお、いわし、さば</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 魚に触る。 ・ 魚の名前を知る。 ・ 魚をさばく様子を見る。 ・ つみれ汁を試食する。 	○ 環境の変化などにより、獲れる魚の種類や量は変化しているが、日本のまわりでは、たくさんの魚が獲れることを説明する。	○ 魚をさばく。 ○ つみれ汁を、各児童に配る。 ○ 魚の栄養について児童に説明する。
<p>5 これからの日本の漁業について、話し合う。 (予想される考え)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ もっと魚を食べたほうがいい。 ・ 好き嫌いしないで、大事に食べる。 ・ 魚は、捨てる場所がない。栄養がある。 ・ 魚は、日本人の大切な食料。 ・ 輸入に頼りすぎず、海を大切に、日本で獲れる魚を増やしたい。 ・ 漁業をする人が増えるといい。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 評 日本の漁業の問題を、環境の変化による影響、国際協調の観点、生産者と消費者との観点をもとに考え、これからの日本の漁業について、自分なりの考えをもつことができる。 (思考・判断)【ワークシート・発表】 </div>	T2
<p>6 国内の漁業を発展させるためにどうしたらよいか、自分の考えを発表する。</p>	○ 日本の漁業についての自分なりの考えをワークシートに記入し、発表させる。	○ 環境の変化による影響、近海で獲れる魚の良さを児童に説明する。